2024年3月6日（水）第一水曜祈祷会

詩篇46篇1～11節

「われらの避け所」

【観察と黙想】 ＊神がともにおられることこそ、平和と安全の最大の保障である。

1.『神への不動の信頼』（1～3節） ＊「われら」とは、直訳「われらにとって」。

①「神はわれらの避け所」とは、どういうことを表していますか。

→

②「そこにある強き助け」とは、どういうことを表していますか。

→

③「たとえ地が変わり、山々が揺れ、海のただ中に移るとも」とは、どういうことですか。

→

2.『神の守りによる確信』（4～7節） ＊「川がある」とは、神の豊かな守りの表現。

①詩人はどうして「その都は揺るがない」と確信しているのですか。

→

②「立ち騒ぎ」「王国は揺らぐ」「地は溶ける」とは、どういうことですか。

→

③「万軍の主はわれらとともにおられる」とは、どういうことですか。

→

3.『主のみわざを見よ』（8～11節） ＊「来て、見よ」とは、神の働きを刮目せよの意。

①「主は、地の果てまでも戦いをやめさせる」とは、どういうことですか。

→

②「やめよ、知れ」とは、どういうことを表していますか。「やめよ」とは、放棄すること。

→

③「国々の間であがめられ」とは、どういうことですか。

→

【適用と分かち合い】

①あなたにとって、神が「避け所」「力」であるとは、どういうことですか。

②あなたにとって、「やめよ、（静まって）知れ」とは、どういうことですか。

③あなたにとって、「万軍の主がともにおられる」とは、どういうことですか。

「立ち返って落ち着いていれば、あなたがたは救われ、静かにして信頼すれば、あなたがたは力を得る。」（イザヤ書30：15）

「『誇る者は主を誇れ』と書いてあるとおりになるためです。」（Ⅰコリント1：31）

「神は混乱の神はなく、平和の神なのです。」（Ⅰコリント14：33）